

1. 事業の位置付け

事務事業名	交通バリアフリー促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
予算科目	00-xxxxxx-xx0000	事業種類	<input type="radio"/> ハード <input checked="" type="radio"/> ソフト
総合計画の位置付け	05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	02	② くまの顔 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	02	2 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する	
根拠法令等	交通バリアフリー法		
対象・受益者	市民	事業期間	～平成22年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
公共交通機関を利用した移動の利便性・安全性が向上し、誰もが自立した日常生活を送っています。		電車やバスなどを利用した移動の利便性や安全性の向上を図るため、交通バリアフリー基本構想に基づき整備を行う公共交通事業者、道路管理者、公安委員会などへ促進を働きかけます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	平塚市交通バリアフリー特定事業推進協議会開催回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		1	1	1	1	-	-	
	実績		1	1					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	特定事業達成度						単位	%
	説明・算定式	平成22年度を100%とした達成率。各事業者が計画する特定事業の達成率を評価。							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		25	50	75	100	-	-	
	実績		25	50					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
平塚駅周辺のバリアフリー化事業の早期実現を図るため、各事業者や市民が参加する平塚市交通バリアフリー特定事業等推進協議会を開催し、事業の進行管理及び調整を行いました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	駅構内や駅を中心とした周辺道路等に対してバリアフリーを望む声は多く、各事業者が重点的かつ一体的に推進するよう調整する必要があります。 交通バリアフリー基本構想に基づき各事業者が整備を進めています。 バリアフリー基本構想に定めた特定事業の完了を平成22年としており、効率的な推進を図るため、関係する事業者や管理者等との協議や調整が必要となります。 市民や関係する事業者等の意見や提案により、本市が策定したバリアフリー基本構想を各事業者間と調整し効率よく進めます。
今後に向けた課題の分析 交通事業者、道路管理者及び公安委員会がそれぞれの実施計画に基づき、事業が推進できるよう調整し進行管理を行う必要性があります。						

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			推進協議会の開催	推進協議会の開催	推進協議会の開催	推進協議会の開催		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.35	0.35	0.25	0.15	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,937	2,937	2,089	1,254	0	0
フルコスト (A+B)		0	2,937	2,937	2,089	1,254	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 継続的なバリアフリー化の推進に向け、引き続き、交通バリアフリー特定事業等推進協議会を開催し、進行管理及び調整を行います。	
平成22年度の実行方針 交通事業者、道路管理者及び公安委員会がそれぞれの実施計画に基づき、事業が推進できるよう協議、調整します。	
課長コメント	交通利便性や安全性の確保を図るため、交通事業者、道路管理者等関係団体との協議・調整を行い、交通バリアフリー化を推進していく必要があると考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		平塚駅周辺のバリアフリー化事業の早期実現を図るため、各事業者や市民が参加する平塚市交通バリアフリー特定事業等推進協議会を開催し、事業の進行管理及び調整を行った。	平塚駅周辺のバリアフリー化事業の早期実現を図るため、各事業者や市民が参加する平塚市交通バリアフリー特定事業等推進協議会を開催し、事業の進行管理及び調整を行いました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		交通事業者、道路管理者及び公安委員会がそれぞれの実施計画に基づき、事業が推進できるよう進行管理に努める。	交通事業者、道路管理者及び公安委員会がそれぞれの実施計画に基づき、事業が推進できるよう調整し進行管理を行う必要性があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		交通事業者、道路管理者及び公安委員会がそれぞれの実施計画に基づき、事業が推進できるよう協議、調整する。	交通事業者、道路管理者及び公安委員会がそれぞれの実施計画に基づき、事業が推進できるよう協議、調整します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	駅前参道修景促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
予算科目	01-080401-050000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	02	2 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 地域住民、商店会等 】		
目的・目標		事業の概要	
大門通りでは、八幡宮に向かう歴史を活かしたにぎわいある参道の修景づくりに、市民や商店会などが主体となって取り組んでいます。		ゆとりとうるおいのあるまちの顔づくりを進めるため、市民や地域の商店会などによる平塚八幡宮の歴史を活かした景観形成を促進し、にぎわいのある参道づくりを目指します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	計画の進捗率						単位	%
	説明・算定式	H19：基本方針50% H20：計画策定50%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		50	100	100	-	-	-	
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	③：遅れている								
	遅れている理由	地域組織を立ち上げたが、地域組織との協議が進まなかった。							
平成20年度の主な取組と成果									
景観計画の策定において、駅前参道を含む地域を景観重点区域に指定しています。また、関係課と事業の推進について検討を行うとともに、地域組織の立ち上げを行ったが、計画策定までは至らなかった。									
平成20年度の検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	中心市街地の活性化と合わせて、平塚市の玄関口として良好な景観形成を求める声が強。策定した市景観計画でも景観重点区域に位置づけてあり、市としても取り組む必要があります。 要綱で指定しているまちなみ景観形成におけるモデル地区の推進を図ることができます。また、歴史を活かした参道づくりにより、地域の賑わいの創出を図ることが必要です。 地域と調和し、地域の魅力を高める景観形成を促進するため、地域住民自らが主体となって行う景観づくりに対する支援し、地域のニーズに応じた適切な対応が図られます。 参道づくりの検討においては、専門的知識を必要とすることから景観アドバイザー等の意見を参考に、地元商店会等と検討を進める必要があります。
今後に向けた課題の分析 地元商店会等による具体的な計画づくりを支援し、協働のまちづくりを進めます。						

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			計画づくりや推進 方策に関する支援	アドバイザーの派 遣	アドバイザーの派 遣	参道づくりの支援 及び地元との協働 によるイベントの 開催	参道づくりの支援 及び地元との協働 によるイベントの 開催	参道づくりの支援 及び地元との協働 によるイベントの 開催
財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	60	60	60	60
事業費 (A)		0	0	0	60	60	60	60
執行率 (%)		—	—	—				
内 訳	職員 (人)	0.00	0.25	0.25	0.28	0.28	0.28	0.28
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,098	2,098	2,340	2,340	2,340	2,340
フルコスト (A+B)		0	2,098	2,098	2,400	2,400	2,400	2,400

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 景観計画・景観条例を活用し、景観づくりに対する住民意識の高揚を図り、より一層の景観づくりに取り組みます。	
平成22年度の取組方針	
住民主体の計画づくりを支援し、駅前参道の修景を促進します。	
課長コメント	地域との協議を行い、地域の意向を十分に踏まえた計画作りを進めるとともに、出来ることから取組みを進める必要があります。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	③：遅れている	③：遅れている
主な取組と成果		景観計画の策定と合わせて、駅前参道に係る景観づくりの方向性を検討。また、庁内各課と連携した事業の推進方策について庁内調整を行った。	景観計画の策定において、駅前参道を含む地域を景観重点区域に指定しています。また、関係課と事業の推進について検討を行うとともに、地域組織の立ち上げを行ったが、計画策定までは至らなかった。
検証結果	—	B：おおむね成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。今後、新たな景観計画における景観重点区域のアクションプランの検討・実施と合わせて、地域住民等による具体的な計画づくりを支援し、より効果的な事業の推進に取り組む。	地元商店会等による具体的な計画づくりを支援し、協働のまちづくりを進めます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	拡大して継続
取組方針		県等の支援制度の活用も検討しながら、住民主体の計画づくりやアクションプランの実践を支援し、駅前参道の景観形成を促進する。	住民主体の計画づくりを支援し、駅前参道の修景を促進します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	北口駅前広場バリアフリー化事業		
事業担当	まちづくり事業部 まちづくり事業課		
予算科目	01-080406-020000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	02	② くまの顔 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	02	2 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する	
根拠法令等	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律		
対象・受益者	市民、来街者	事業期間	平成19年度～平成21年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
平塚駅北口を利用する市民、来街者が安全・快適に駅北口及び駅前広場を利用できるようになっています。		中心市街地の活性化のため、北口駅前広場をバリアフリー化します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	バリアフリー化進捗率						単位	%
	説明・算定式	H19：実施設計5%、H20：整備完成：95%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		5	100	100				
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	③：遅れている								
	遅れている理由	バス事業者、タクシー事業者との調整に時間を要したため。							
平成20年度の主な取組と成果									
JR、交通事業者、警察等と協議を行い、配置計画を作成し、工事に着手しました。									
平成20年度の検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	北口駅前広場のバリアフリー化については、市民の声のほか、NPO団体から約8,000名の署名をいただいております。バス、タクシー等に平面移動で乗降できる駅前広場への改善要望の必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	平塚市総合計画第一次実施計画における「人々が憩えるゆとりとうるおいある都市空間を創造する」に位置づけられており、高齢者や身体障害者などの移動円滑化に貢献することから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	高齢化社会の進展により、バリアフリー法が施行された中で、本市においても、交通バリアフリー基本構想を策定して、北口駅前広場のバリアフリー化を位置け、その整備を行うもので、妥当性は高いと思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	当該事業の施工に当たっては、できるだけ夜間の作業を避け、工期の短縮やコストの低減を図ります。	○ 高 ● 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 駅前広場から改札までのバリアフリー化や、地下道の状況を踏まえた有効利用が課題となります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			実施設計	改修工事	改修工事 良好な駅前広場環境			
財源内訳	国庫支出金	0	5,200	6,200	87,000	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	56,000	54,000	0	0	0
	その他 特財	0	0	1,493	0	0	0	0
	一般財源	0	1,625	67,171	91,960	0	0	0
事業費 (A)		0	6,825	130,864	232,960	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.75	0.75	1.10	0.00	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	6,294	6,294	9,192	0	0	0
フルコスト (A+B)		0	13,119	137,158	242,152	0	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 平成21年度までには北口駅前広場バリアフリー化の整備が終了することから、本事業は終了します。	
平成22年度取組方針	
課長コメント	北口駅前広場のバリアフリー化後、次のステップとして、駅前広場から改札までのバリアフリー化をめざします。また、地下道の状況を踏まえた有効利用を模索します。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	③：遅れている
主な取組と成果		JR、交通事業者、警察等と協議を行い、基本的な配置計画を作成した。	JR、交通事業者、警察等と協議を行い、配置計画を作成し、工事に着手しました。
検証結果	—	B：おおむね成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		駅前広場から改札までのバリアフリー化や、地下道の状況を踏まえた有効利用が課題となる。	駅前広場から改札までのバリアフリー化や、地下道の状況を踏まえた有効利用が課題となります。
事業の方向性	—	縮小して継続	終了
取組方針		平成21年度は、バリアフリー化の目的に照らして事業の評価を行い、良好な駅前環境を検証する。	
事業区分	—	実施計画事業	—

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	駅（西口）周辺魅力アップ事業		
事業担当	まちづくり事業部 まちづくり事業課		
予算科目	01-080406-960000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	02	② くまの顔 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	02	2 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民・来街者	事業期間	平成16年度～平成23年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/> 】		
目的・目標		事業の概要	
西口跨線橋のバリアフリー化、西地駐輪場整備及び駅前民間複合ビルの建設促進により、まちのにぎわいを創出し、魅力アップが図られています。		まちの新しい顔づくりとして、まちのにぎわいや潤いを創出するため、西口跨線橋のバリアフリー（エレベータ設置）化の推進や西地駐輪場整備を促進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	JR東日本との協議回数						単位	回
	説明・算定式	-							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		5	5	5				
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	西口跨線橋エレベータ設置進捗率						単位	%
	説明・算定式	平成23年度を100%としたエレベータ設置進捗率。 H19：事前協議10%、H20：用地買収40%、H21：北側エレベータ設置13%、H22：南側エレベータ設置13%、H23：駅構内エレベータ2基設置24%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		10	50	63	76	100	100	
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
JR東日本用地買収について土地交換を含めた協議を行い、実施に向けて基本的な方向性が出せました。西口跨線橋及び駅西口構内のエレベーター設置について協議を行い、設置について、覚書の締結準備を進めました。									
平成20年度の検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	西口跨線橋のバリアフリー化や駐輪場整備については、これまでも署名を始めとした数多くの要望が寄せられており、早期の課題解消が求められていることから、必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	西口跨線橋のバリアフリー化や駐輪場の整備によって、西口周辺の利便性や景観の向上が図られることから、必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	再開発事業用地の有効活用による課題解消によって市民ニーズにこたえ、西口周辺の魅力アップを図られることから、妥当性は高いと思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	民間活力の活用が可能な部分については、積極的に民活手法を取り入れ、可能な限り少ない財政負担によって事業を実施します。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

早期の西口跨線橋のバリアフリー化に向けた鉄道事業者との協議を継続することと、民活手法を取り入れるために必要な用地の確保のための地権者協議を推進します。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			事前協議	事前協議	事前協議	用地買収、設計委託、改札内設計補助	南北エレベータ設置、改札内エレベータ設置補助、西地駐輪場整備促進	民間複合ビル事業者公募促進
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	191,572	350,000	0
事業費 (A)		0	0	0	0	191,572	350,000	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.15	1.15	0.95	0.95	0.95	0.95
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	9,650	9,650	7,939	7,939	7,939	7,939
フルコスト (A+B)		0	9,650	9,650	7,939	199,511	357,939	7,939

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> 用地買収について基本的な方向性が出たことから、買収に向け、具体の協議を推進します。 エレベーター設置について平成21年度に覚書を締結し、平成22年度に設計施工協定締結を目指します。	
平成22年度の取組方針	
民間複合ビル事業について、スケジュールの検討や、事業者の公募等について検討を行い、効率的な手法を模索します。	
課長コメント	西口地区は、本市の課題である自転車問題を解決するために駐輪施設の整備と跨線橋のバリアフリー化を進めます。また、魅力アップを図るために民間活力を導入して賑わいの創出を図っていきます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		ライナーホーム設置について市としての方針を変更し、西口再開発事業用地の有効活用により、駐輪場整備や西口跨線橋のバリアフリー化を図り、駅周辺の魅力アップを図るために、ライナーホーム設置の方針変更と西口地区の土地利用方針について庁内調整の上、庁議決定した。また、庁議決定を受けて、関係者に説明し、理解された。	JR東日本用地買収について土地交換を含めた協議を行い、実施に向けて基本的な方向性が出せました。西口跨線橋及び駅西口構内のエレベーター設置について協議を行い、設置について、覚書の締結準備を進めました。
検証結果	—	A：成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		早期の西口跨線橋のバリアフリー化に向けた鉄道事業者との協議を継続すること、民活手法を取り入れるために必要な用地の確保のための地権者協議を推進する。	早期の西口跨線橋のバリアフリー化に向けた鉄道事業者との協議を継続すること、民活手法を取り入れるために必要な用地の確保のための地権者協議を推進します。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		民間複合ビル事業について、事業者の公募手続を進めたい。	民間複合ビル事業について、スケジュールの検討や、事業者の公募等について検討を行い、効率的な手法を模索します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。